

○財務比率比較表

	比率	算式	評価	目的	2009年度	2010年度	全国平均 2009年度
貸借対照表関係比率	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	資産構成	78.6	78.9	86.8
	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	資産構成	21.4	21.1	13.2
	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	▼	負債の割合	7.5	7.1	7.5
	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	▼	負債の割合	2.3	2.3	5.7
	自己資金構成比率	$\frac{\text{基本金+消費収支差額}}{\text{総資金}}$	△	自己資金の充実度	90.1	90.6	86.8
	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	△	自己資金の充実度	-8.0	-10.0	-8.1
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	▼	長期資金で固定資産は賄われているか	87.2	87.1	100.0
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	▼	長期資金で固定資産は賄われているか	80.4	80.8	92.0
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	負債に備える資金の蓄積	925.3	929.1	232.7
	総負債比率	$\frac{\text{固定負債+流動負債}}{\text{総資産}}$	▼	負債の割合	9.9	9.4	13.2
	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	▼	負債の割合	10.9	10.3	15.2
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	△	負債に備える資金の蓄積	956.2	1,161.6	298.1
	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	△	負債に備える資金の蓄積	101.1	101.3	70.6
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	自己資金の充実度	97.1	97.4	96.9

	比率	算式	評価	目的	2009年度	2010年度	全国平均 2009年度
消費収支計算書関係比率	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▼	支出構成は適切か	65.9	72.2	52.6
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒納付金}}$	▼	収入と支出のバランスはとれているか	108.5	108.4	72.4
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	支出構成は適切か	21.5	25.2	30.9
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▼	支出構成は適切か	9.0	10.7	10.3
	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	▼	支出構成は適切か	0.5	0.5	0.4
	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▼	収入と支出のバランスはとれているか	142.9	113.4	110.8
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	～	収入構成はどうか	60.8	66.6	72.7
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	△	収入構成はどうか	4.0	1.6	2.5
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	△	収入構成はどうか	26.9	22.4	12.9
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	△	支出構成は適切か	32.0	3.8	13.1
	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	～	支出構成は適切か	11.4	12.9	11.3

・資料 平成22年度版今日の私学財政(日本私立学校振興共済事業団)

・評価 △高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない